



立花中学校の職員文化

本校は、3年生41名、2年生28名、1年生36名で、規定によると各学年1クラス（特別支援学級を除く。）ですが、制度を利用して3年生を2クラスにしています。3クラス分の職員数で4クラス分の授業を行うので、一人あたりの

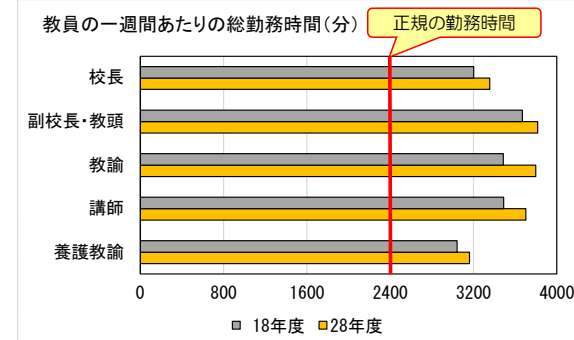


授業時数が増えることとなります。しかし、「生徒のためにその方がよい」と職員で合意して実施しています。生徒を中心に据えた職員文化が本校には脈々と息づき、引き継がれています。

同様に、1年生の数学・英語もクラスを2つに分け、半分の人数で授業を実施しています。こちらも、同じクラスに2回授業をすることになるので、授業時数は2倍になりますが、担当の武田先生、藤井先生ともに了解の上、きめ細やかな指導の充実に努めています。

働き方改革の波の中で

右のグラフは、文科省が調査した中学校教員の超過勤務時間数です。授業準備やその他の事務作業、部活等、日本の教師の多忙は世界でもトップクラスです。しかし、教師が元気でなければ生徒が元気になるはずがありません。



出来るだけ生徒と過ごす時間を確保し、健康を維持するために、学校内の無駄を省き、早めに帰宅して翌日への鋭気を養うサイクルにしていきたいと思います。毎朝、教師と生徒が笑顔で出会える学校でいたいと思います。

本校1年生の数学と英語は、武田先生と藤井先生の授業でガッチリ基礎を固めています。

武田先生の授業は、一言で表すと「丁寧」です。

授業の最初は前の時間の振り返りから入り、問題を出して生徒の考えを引き出します。その後、答えの導き方を説明し、練習問題に取り組みます。時折武田先生の人柄からは想定外の鋭いツッコミが授業にアクセントをもたらします。



新しい学習指導要領で1年生に新しく加わった内容はほとんどありません。1年生は「数学を活用するための基礎」である文字の概念や正負の計算、等式の理解などをきちんと身につけることが絶対に必要です。

武田先生は、理解が不十分な生徒に昼休み等を使って一人ずつ呼んで補充学習も実施しています。2年後に進路実現するためにも、しっかりと「数学を活用するための基礎」を身につけてほしいものです。



授業中の様子を見ていると、1年生が少しずつ学校に慣れてきたなあと思います。特に感心しているのは、指示への反応が早いことです。「書く」「聴く」などの指示がだされて一斉に出来る集団は、必ず伸びます。慣れてくると色々だらけることもありますが、この良さは持ち続けてほしいと思います。

藤井先生の授業は、先生の人柄がよく反映された、賑やかで楽しい雰囲気で開催されます。



授業の最初にまず英語の歌を歌い、フラッシュカードを使ってのクイズ的な単語・熟語の確認、それらをもとにした英文の読み取りや、英語での書き表しがテンポよく指示されます。その後、生徒が自分で書いた英文を見ながら、教科書記述の「単語と単語の間は小文字1文字くらいあけて書きます」という一文を読ませて、自分で確認する作業を行います。英語の基本中の基本ですが、あいまいにせず、きちんと身につけさせる活動の意図が明確です。

本校1年生は、小学校5・6年時の音声を中心とした英語活動から、「読むこと」や「書くこと」を加えた英語科へと学びを進めています。基礎をきちんと固め、英語による実践的コミュニケーション能力を高めている最中です。

